

令和2年度 事業報告書

自 令和 2年4月 1日
至 令和 3年3月31日

公益財団法人中東調査会
東京都新宿区西新宿7-3-1 三光パークビル5F
電話 03-3371-5798

令和2年度事業報告書

I 法人の概況

1 設立年月日 昭和35年（1960年）10月3日 【創立：昭和31年（1956年）2月】
平成24年（2012年）4月1日公益財団法人へ移行

2 定款に定める目的

当調査会は、中東地域（北アフリカを含む）の安定した発展なくして国際政治経済環境の十全を期し得ない状況の下、エネルギー面でとりわけ脆弱な我が国の平和と繁栄、即ち国益にとり、この地域の国々との円滑な友好協力関係が死活的重要性を有していることについて国民の理解を深めるため、専門家の育成、内外研究機関及び企業との交流をふまえ、地域研究、地域関連情報の収集、専門的・実務的知見のできる限り広範な伝播、これに基づく適切な与論形成に努力し、もって我が国の平和と繁栄に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業

- (1) 中東地域及び域内諸国等及びこれらと深く関係する地域及び諸国等の政治、経済、社会、文化等についての研究及び調査
- (2) 前号に規定する研究及び調査に基づく資料の刊行
- (3) 現地事情紹介のための会議、講演会、セミナー、シンポジウム等、我が国における中東についての理解の増進及び知識の普及を図る啓発事業の実施及び実施協力
- (4) その他当調査会の目的を達するために必要な事業

4 所管管庁に関する事項
内閣府

5 賛助会員の状況 (令和3年3月31日現在)

種類	当期末	前期末	前期末比増減	備考
法人会員	94 法人	100 法人	△ 6 法人	
個人会員	226 人	207 人	19 人	
(個人会員内訳)	特別個人会員：11人 普通個人会員：215人	特別個人会員：12人 普通個人会員：195人		

6 事務所

東京都新宿区西新宿7丁目3番1号 三光パークビル5階

7 役員等に関する事項

(令和3年3月31日現在)

(1) 理事、監事等

理事、監事等の常勤・非常勤の別：全員が無給・非常勤である（役員順：就任順）

役職	氏名	現職
会長	佐々木 幹夫	三菱商事(株) 元会長
理事長	齋木 昭隆	三菱商事(株) 取締役、外務省顧問、元外務事務次官（国家公務員出身者）
副理事長	浅子 清	前駐バハレーン大使（国家公務員出身者）
常任理事	山内 昌之	東京大学名誉教授
常任理事	細野 哲弘	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事長、元資源エネルギー庁長官（国家公務員出身者）
監事	吉川 英一	㈱三菱東京UFJ銀行 顧問
監事	藤崎 一郎	公益財団法人 中曽根康弘世界平和研究所（NPI）理事長、元駐米大使（国家公務員出身者）

代表理事：佐々木幹夫、齋木昭隆（2人）、業務執行理事：浅子清（1人）、理事：山内昌之、細野哲弘（2人）、監事：藤崎一郎、吉川英一（2人）

(2) 顧問 (50音順)

役職	氏名	現職
特別顧問	有馬 龍夫	元日本国政府代表・元中東和平担当特使、元駐ドイツ大使（国家公務員出身者）
顧問	石井 敬太	伊藤忠商事(株) エネルギー化学品カンパニープレジデント
顧問	伊藤 仁	㈱日立製作所 執行役常務
顧問	大江 靖	コスモエネルギー開発(株) 代表取締役社長
顧問	木村 康	ENEOSホールディングス(株) 特別理事
顧問	佐々木 伸彦	独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ) 理事長
顧問	山東 理二	千代田化工建設(株) 代表取締役社長
顧問	高原 一郎	丸紅(株) 取締役副会長
顧問	竹村 章敏	トヨタ自動車(株) 中東部 部長
顧問	月岡 隆	出光興産(株) 代表取締役会長
顧問	寺井 一郎	㈱IHI 顧問
顧問	中村 邦晴	住友商事(株) 取締役会長
顧問	中山 真一	サウディ石油化学(株) 取締役社長
顧問	成瀬 正治	㈱ホテルオークラ東京 代表取締役社長
顧問	西 克司	アブダビ石油(株) 代表取締役社長
顧問	西浦 完司	三菱商事(株) 顧問
顧問	服部 真二	セイコーホールディングス(株) 代表取締役会長兼グループCEO
顧問	林 欣吾	中部電力(株)代表取締役社長 社長執行役員
顧問	藤谷 泰之	三井物産株式会社 顧問
顧問	宮家 邦彦	㈱外交政策研究所代表

以上、20人

(3) 参与 (50音順)

役職	氏名	現職
参与	足木 孝	元駐クウェイト大使
参与	浦部 和好	元内閣官房副長官補(元駐エジプト大使、元外務省官房長)、元中東調査会評議員
参与	大野 元裕	埼玉県知事(元中東調査会客員研究員)
参与	恩田 宗	元駐サウジアラビア大使(一般社団法人総合研究フォーラム顧問)
参与	鏡 武	元駐シリア大使、元中東調査会副会長
参与	加藤 博	一橋大学名誉教授
参与	黒川 剛	元駐クウェイト大使
参与	小杉 泰	アジア日本研究所所長
参与	塩尻 宏	元駐リビア大使、元中東調査会副理事長
参与	内藤 正典	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 教授
参与	八尾師 誠	東京外国語大学名誉教授
参与	目黒 孝敏	元駐バハレーン大使
参与	守村 卓	元三菱UFJ銀行副頭取、前中東調査会監事

以上、13人

(参考) 【定款第29条】

1. 理事 3名以上10名以内、 監事 1名以上2名以内

【定款第33条】

1. 代表理事2名のうち1名を会長、他の代表理事を理事長に選任する。

2. 3名以内の業務執行理事のうち1名を副理事長とすることができる。理事のうち1名を副会長、若干名を常任理事とすることができる。

【定款第41条】

1. 当調査会に、名誉顧問若干名、顧問40名以内及び参与30名以内を置くことができる。

2. 名誉顧問、顧問及び参与は、理事会の承認を得た上で理事長が委嘱し、直近の評議員会に報告するものとする。名誉顧問、顧問及び参与の資格、任期、解任については、理事会が定める。

3. 名誉顧問、顧問及び参与は無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用を支払うことができる。

(4) 評議員

評議員の常勤・非常勤の別：全員が無給・非常勤である (50音順)

氏名	現職
評議員 北村 文夫	岩谷直治記念財団評議員会長、元読売新聞編集委員
評議員 須藤 隆也	公益財団法人日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センターディレクター、元駐エジプト大使(国家公務員出身者)
評議員 関場 誓子	聖心女子大学名誉教授
評議員 高島 肇久	海外通信・放送・郵便事業支援機構会長
評議員 渡辺 喜宏	一般社団法人 日本百賢アジア研究院理事長、学校法人AICJ 鷗州学園理事長、公益財団法人 アジア学生文化協会評議員

以上、5人

(参考) 【定款第14条】

評議員 3名以上10名以内

8 職員に関する事項 (令和3年3月31日現在)

職員数 (人)	前期末比増減 (人)	平均年齢	平均勤続年数	備考
男子 5	2	38.7 歳	1.5年	
女子 4	-1	46.0 歳	10.5年	
合計 又は平均 9	1	53.0 歳	6.9年	

(注) 男子職員のうち1人は週2日勤務である、1人は週1日勤務である。

II 事業の状況

1 事業の実施状況

別紙「事業の実施状況」参照

2 役員会に関する事項

名称	開催年月日	決議事項等
第1回臨時理事会	令和2年5月29日	顧問及び参与の重任
第2回臨時理事会	令和2年5月29日	受託規程の一部改正
定時理事会	令和2年7月8日	令和元年度事業報告書 令和元年度決算報告書 理事・監事の改選 顧問の辞任・選任 参与の辞任・選任 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等
定時評議員会	令和2年7月22日	議長の選出 議事録署名人の選出 令和元年度事業報告及び決算書類 理事・監事の選任
第3回臨時理事会	令和2年7月22日	代表理事、業務執行理事選任の件 役付き理事の選任
第4回臨時理事会	令和2年12月16日	令和3年度事業計画書 令和3年度収支予算書 受託既定の改定 令和2年度第一回臨時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の承認
第1回臨時評議員会	令和2年12月23日	令和3年度事業計画書 令和3年度収支予算書
第5回臨時理事会	令和3年3月31日	顧問の辞任及び後任顧問の選任

3 正味財産の状況並びに財産の状況の推移

単位：円

	前々期 平成31年3月期	前期 令和2年3月期	当期 令和3年3月期	備考
資産合計	65,401,200	65,677,738	71,939,320	
負債合計	13,135,882	10,078,672	11,357,119	
正味財産	52,265,318	55,599,066	60,582,201	

平成21年度から、「新々公益法人会計基準」（内閣府公益認定等委員会が平成20年4月11日に公表した『公益法人会計基準』の運用指針）を採用している。

III 法人の課題

当法人の対処すべき課題

(1) 公益財団法人としての運営方針

当調査会は、平成24年4月1日付にて公益財団法人へ移行した。公益財団法人としての責務を果し、持続性を確保するために、当調査会への社会的需要に応えつつ、財政基盤を確固たるものとするのが、継続的な課題になる。当調査会はこの課題に対処すべく、調査研究・会員サービス・一般向けの情報発信という事業活動の一層の充実に取り組みたい。また近年の中東における不安定化や治安の悪化を背景に、邦人及び邦人企業の安全を強化するため、政府の対応にも協力しつつ、調査・分析を強化する。

(2) 質の高い事業の推進

当調査会が充実した活動を行うためには、官公庁、企業、研究教育機関、および社会全体の中でその存在感を高めなくてはならない。そのためには、より質の高い広報活動の推進が求められる。また当調査会のこれまでの研究調査を踏まえ、法人会員・個人会員の関心に応じていくとともに、一般の人やメディアのニーズに的確に対応する情報発信を行う。従来の出版物、電子メール、ホームページの充実に加え、SNS（Facebook、Twitter）の新しい発信手段を活用することで、情報発信・広報体制の強化を図る。同時に、そのための基盤として調査・研究活動の体制を効率化し知的生産活動を拡充する。

(3) 活動基盤の充実

当調査会が今後一層の質の高い事業展開を行っていくためには、その活動の財政的基盤を強化することが不可欠である。賛助会員の拡大、受託研究調査事業の開拓をはじめ会員および潜在的顧客層の関心の高いセミナー、フォーラムの開催、中東に関する研究への支援のさらなる拡大を図る。

別紙：「事業の実施状況」

以上

【公益目的事業その1】 中東に関する研究・調査事業

ア 政治・経済・社会・文化等についての研究および調査 (中東資料センター)

中東の動向についての情報を現地の異なる政治的立場に立つメディア（新聞、テレビ、インターネット・サイト）、欧米の紙誌・通信社、日本の報道機関等を通じてより網羅的に収集した。

1. 「日誌データベース」の更新

「日誌データベース」（中東地域の国別主要動向）をはじめとする中東各国に関する情報を幅広く収集・整理したデータベースの更新を行った。令和2年度入力データ数は8,706件（令和2年度末のデータ総数は平成5年以降、22万80件）。

令和3年の各国動向は『別冊・中東研究：中東各国動向』の刊行にあたって活用した。

2. 「中東要人データベース」の更新

中東諸国の政治家を中心とした要人動向を整理し、昭和50年代末からデータベース化している。令和2年度末までにデータを収集した要人総数は2万4,410人。

3. 中東諸国外交官等からの情報収集

外務省等の関係省庁・機関や在京の中東諸国大使館の外交官、中東に係るビジネスマンらから情報を収集した。その一環として、来日した外国諸機関関係者、政治家、研究者らとの会合を行い、中東情勢に関する情報収集・分析に努めた。また海外からの訪問者に対して日本の立場や政策について説明した。

(1) 外務省オンライン招聘者との意見交換

令和3年2月24日（水）15:00～16:30（オンライン形式）

アブドルハフィズ・ナビヘイル（アフガン・イスラミック・プレス編集長）

青木 健太（中東調査会研究員）

4. 関係研究機関との連携

当調査会研究員は、石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、国際協力機構（JICA）、JETROアジア経済研究所、東京外国語大学、法政大学現代法研究所、科学研究費助成事業基盤B「現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究」、科学研究費助成事業基盤B「シリア内戦の比較研究—レバノン・旧ユーゴスラビアの内戦と戦後和解」、東京外国語大学AA研共同利用・共同研究課題「現代ムスリム知識人の変容と交流」、日本文化人類学会・植松東アジア研究基金助成「エスニシティと多文化共生をめぐる人類学的研究：台湾ムスリム・コミュニティの事例から」、科学研究費助成事業基盤B「権威主義体制における分配政治の変容とアカウンタビリティ改革：中東諸国の比較研究」などの研究・調査事業に参加して、連携の強化と研究内容の向上に努めた。

イ 受託調査

政府、民間より研究・調査プロジェクトの委託を受け実施している。調査結果は、委託者の意向により、そのままの形で公表できないものもあるが、調査の過程で得られた知見や人脈は当調査会の講演会や刊行物で活用した。

1. 情報収集・分析業務

「テロ組織及びテロリスト情報の収集・分析業務」（委託者：外務省）

「テロ組織の機関誌の分析業務」（委託者：外務省）

2. 横浜市立大学「令和2年度エクステンション講座」への講師派遣

テーマ：「混迷する現代の中東・北アフリカ」

定員：50名 於）横浜市立大学 金沢八景キャンパス

第1回 令和2年10月19日（月）

講師：山崎 和美（横浜市立大学准教授・中東調査会客員研究員）

演題：「中東・北アフリカ概要、イスラームの誕生と宗派」

（当調査会は、第2回以降の講座を受託した）

第2回 令和2年10月21日（水）

講師：金谷 美紗（中東調査会上席研究員）

演題：「シリア紛争の推移と今後の課題」

第3回 令和2年10月26日（月）

講師：高尾 賢一郎（中東調査会研究員）

演題：「ペルシャ湾岸諸国とイスラーム」

第4回 令和2年10月28日（水）

講師：金子 真夕（中東調査会研究員）

演題：「最近のトルコ情勢」

第5回 令和2年11月9日（月）

講師：青木 健太（中東調査会研究員）

演題：「アフガニスタン紛争が迎える新たな局面」

第6回 令和2年11月11日（水）

講師：高橋 雅英（中東調査会研究員）

演題：「マグリブ諸国の政治経済情勢」

3. さいたま市与野本町公民館への講師派遣 令和3年11月6日（金）

講師：金子 真夕（中東調査会研究員）

演題「中東の「今」を理解するために-トルコから読み解く-」

4. 公益財団法人としま未来文化財団「ちとせ橋コミュニティ塾」

令和2年11月25日（水）

講師：金子 真夕（中東調査会研究員）

演題「世界は今「中東情勢を知る」(1)」

令和2年12月2日（水）

講師：高尾 賢一郎（中東調査会研究員）

演題「世界は今「中東情勢を知る」(2)」

5. 横浜市立大学（イスラーム地域史A／アジア近現代史）ゲスト講師（オンライン形式）

令和2年12月25日（金）

講師：金子 真夕（中東調査会研究員）

演題：「混迷する現代の中東：最近のトルコ情勢」

6. 横浜市立大学

(混迷する現代の中東・イスラーム世界：最近の中東・イスラーム世界の情勢に焦点を当てて) ゲスト講師

令和3年1月26日(火) 12:50~14:20

講師：金谷 美紗、金子 真夕、高尾 賢一郎、青木 健太

7. 外務省「第4回中東における暴力的過激主義対策に関する対話」(オンライン形式)

令和3年3月15日(月)

講師：高尾 賢一郎(中東調査会研究員)

※海外招聘者の報告に対するコメンテーターとして参加

8. 内閣府 PKO 事務局「国際平和協力本部研修」への講師派遣

令和3年3月31日(水)

講師：金谷 美紗(中東調査会上席研究員)

演題：「エジプトの文化、慣習」

ウ メディアを通じての中東情勢解説

政治情勢、治安情勢や、中東諸国からの要人来訪などの機会に、報道機関や様々な情報発信媒体からの照会を受けた。湾岸諸国とイスラエルとの関係正常化(8月)、リビア情勢(停戦発表の背景)(8月)、イラン内政(10月)、「アラブの春」10周年(2月)、バイデン政権のアフガニスタン政策の再検討(3月)、中パ経済回廊(3月)について主要なテレビ、新聞などで解説した。

また、各々の専門分野に関して新聞・雑誌等に執筆を行った。寄稿先は、朝日新聞、外交、Wedge(ウェッジ)、共同通信、信濃毎日新聞、北海道新聞、河北新報、京都新聞、しんぶん赤旗、岩波書店、東京大学中東地域研究センター、MUFG BizBuddy、ミネルヴァ書房など。

エ 一般からの照会に対する回答

中東諸国の政治・社会情勢などについて一般からの電話等による照会に対応して背景説明や解説をすると同時に、中東調査会のホームページ(<http://www.meij.or.jp/>)で諸情勢の経緯や背景など詳細に情報を発信した。

令和2年度のサイト訪問者数は11万1,517人(令和元年度は12万8,912人)、ページ閲覧数は37万4,599回(令和元年度は44万1,165回)だった。

中東の知識普及のため、慶應義塾大学、愛知県立大学、社団法人日本イスラム協会で講義・講演を行った。

また非常勤講師として青山学院大学、学習院女子大学、津田塾大学、東京外国語大学、放送大学、筑波大学で教鞭を執った。

【公益目的事業その2】 出版事業

ア 『中東研究』

昭和 33 年に創刊された中東に関する研究論文、時事解説、資料等を掲載している中東総合専門誌（5 月、9 月、1 月に発刊している）。

第 538 号（2020 年度 Vol. I）（700 部発行）

【特集：イスラーム過激派・武装組織の現在】

イスラーム過激派の過去、現在、将来／高岡 豊

支配領域の喪失に見る「イスラーム国」の現在——バイアとヒスバを中心に／高尾 賢一郎

西アフリカ・サヘル地域でのイスラーム主義武装勢力の活動——歴史的背景と現状／佐藤 章

アッシャバーブの変容と展開／遠藤 貢

パレスチナのイスラーム主義運動——ローカルな組織が帯びる越境性／鈴木 啓之

タリバーンの政治・軍事認識と実像——イスラーム統治の実現に向けた諸課題／青木 健太

エジプトにおけるイスラーム過激派の低迷／金谷 美紗

【最近の動向】

「三度目の正直？」：新型コロナウイルス・パニック下のイスラエル国会選挙／浜中 新吾

中東の難民情勢と UNHCR の取り組み／星野 守

第 539 号（2020 年度 Vol. II）（700 部発行）

【大使の見たままに】

アフガニスタン紛争——和平と国連および日本／山本 忠通

【特集：米国核合意離脱後のイラン】

米国による JCPOA 離脱の戦略的インプリケーション／秋山 信将

イラン・米間緊張を反映するイラク国内政治抗争／酒井 啓子

イラン経済アップデート——制裁、コロナ、グレート・リセット／櫻井 秀子

イランの反体制派は故国に戻れるのか？——モジャーヘディーネ・ハルグの現状と展望／佐藤 秀信

イランと中国の協力関係の歴史——現代中東危機の側面の 1 つとして／田中 聡一郎

【焦点：中東の経済・ビジネス・エネルギー】

サウジアラビアの石油政策の行方——エネルギー転換と石油の将来／松尾 博文

【最近の動向】

トランプ米政権のシリア政策の功罪／青山 弘之

シーシー政権下エジプトの外交政策／市場 裕昭

【書評】

登利谷 正人 著

『近代アフガニスタンの国家形成——歴史叙述と第二次アフガン戦争前後の政治動向』／青木 健太

塩尻 和子 編著

『リビアを知るための 60 章【第 2 版】』／高橋 雅英

第 540 号 (2020 年度 Vol. III) (700 部発行)

【大使の見たままに】

岐路に立つトルコ——2023年建国100周年を前に／宮島 昭夫

【特集：コロナ禍を経た中東政治経済】

内戦後最大の政治経済危機に直面するレバノン／末近 浩太

トルコにおけるCOVID-19の流行と政治への影響／岩坂 将充

新型コロナウイルス感染症とエジプト経済／土屋 一樹

サウジアラビアにおけるコロナ禍とビジョン2030のニュー・ノーマル／高尾 賢一郎

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大とイラン政治経済——経済制裁、COVID-19、及び油価下落がもたらす広汎な影響／青木 健太

コロナ禍のマグリブ経済——欧州経済悪化の影響と若年層の雇用及び越境問題／高橋 雅英

【最近の動向】

米大統領選後の米イラン関係の行方／鈴木 一人

シリア第3期人民議会選挙 (2020年) ——コロナ禍とバアス党の「啓発」プロセス 青山 弘之

【書評】

浜中 新吾・青山 弘之・高岡 豊 編著

『中東諸国民の国際秩序観——世論調査による国際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析』／金谷 美紗

末近 浩太 著

『中東政治入門』／高尾 賢一郎

鈴木 啓之 著

『蜂起<インティファダ> 占領下のパレスチナ 1967-1993』／井森 彬太

『別冊・中東研究データ編』

平成22年度より、これまでのデータ編（紙媒体）を『別冊・中東研究』としてデジタル媒体で発刊している。

『別冊・中東研究：中東各国動向（2020）』（CD-ROM）（令和3年3月刊行）

2020年かわら版編、日誌データ編

<中東全体>

中東

<湾岸・アラビア半島地域>

アラブ首長国連邦（UAE）

イエメン

イラク

イラン

オマーン

カタール

クウェイト

サウジアラビア

バハレーン

GCC

<東地中海地域>

イスラエル

シリア

トルコ

パレスチナ

ヨルダン

レバノン

<北アフリカ地域>

アルジェリア

エジプト

チュニジア

モロッコ

リビア

<その他>

アフガニスタン

イスラーム過激派

<特別書下ろし：「自由で開かれたインド太平洋」と中東>

「中東各国における新型コロナウイルス感染状況」に寄せて

中東における累計感染者数・死者数一覧

各国における新規感染者数の推移

イ ニューズレター

中東各国に関する時事問題や分析記事を、ニュースレター「中東かわら版」として発行した。発行される各号を当調査会 HP に掲載して公開し、一般向けの中東に関する情報配信に努めた。令和 2 年度発行総数は 149 号（令和元年度発行総数は 201 号）。なお、イスラーム過激派についての情報発信は、平成 30 年度から会員サービス向上のため、会員専用の「イスラーム過激派モニター」を中心とする発信形式に改めた。

国別の代表的な記事（令和 2 年 4 月 1 日ー令和 3 年 3 月 31 日）

★アフガニスタン

- ・令和 2 年 9 月 14 日 ターリバーンとの和平交渉が開始
- ・令和 3 年 2 月 3 日 バイデン米政権による対アフガニスタン政策の見直し
- ・令和 3 年 3 月 9 日 米軍撤退期限を目前にバイデン政権による政治的動きが活発化

★UAE（アラブ首長国連邦）

- ・令和 2 年 7 月 4 日 内閣改造・省庁再編
- ・令和 2 年 8 月 14 日 国交正常化の背景・思惑・影響
- ・令和 3 年 2 月 5 日 バイデン米政権のイエメン政策についての反応

★アルジェリア

- ・令和 2 年 5 月 13 日 憲法改正草案の発表
- ・令和 2 年 11 月 6 日 憲法改正が国民投票で承認
- ・令和 3 年 3 月 15 日 前倒しの議会選挙が 6 月 12 日に実施

★イエメン

- ・令和 2 年 7 月 30 日 南部移行評議会（STC）が自治宣言の撤回
- ・令和 3 年 1 月 27 日 反体制支配地域での反米デモ拡大
- ・令和 3 年 2 月 9 日 バイデン米政権がアンサールッター「テロ組織」指定を撤回

★イスラエル

- ・令和 2 年 8 月 14 日 国交正常化の背景・思惑・影響
- ・令和 3 年 2 月 1 日 参謀総長によるバイデン政権批判とイラン攻撃計画の発言の波紋
- ・令和 3 年 3 月 26 日 2 年間で 4 回目の総選挙の結果

★イラク

- ・令和 2 年 5 月 8 日 カーズィミ新首相の承認
- ・令和 2 年 8 月 13 日 イラク北部におけるトルコ軍の空爆
- ・令和 2 年 10 月 13 日 シーア派民兵組織の停戦

宣言と各勢力の思惑

★イラン

- ・令和 2 年 9 月 3 日 バイデン米前副大統領の対イラン政策
- ・令和 2 年 11 月 30 日 ファフリーザーデ核物理学者の暗殺
- ・令和 2 年 12 月 7 日 「制裁解除とイラン国民の利益保護のための戦略的措置」法案の承認とその意味

★エジプト

- ・令和 2 年 6 月 23 日 シーシー大統領がリビアへの軍事介入を示唆
- ・令和 2 年 9 月 4 日 ムスリム同胞団のイッサト副最高指導者逮捕
- ・令和 2 年 12 月 23 日 下院・代議院選挙の最終結果

★オマーン

- ・令和 2 年 8 月 20 日 内閣改造と省庁再編

★カタール

- ・令和 2 年 11 月 18 日 イスラエルとの国交正常化についての言及と背景
- ・令和 3 年 1 月 25 日 カタール国交回復の進展

★クウェイト

- ・令和 2 年 5 月 19 日 公的機関における外国人雇い止めに向けた動き
- ・令和 2 年 12 月 17 日 首長崩御、議会選挙を経ての新内閣誕生
- ・令和 3 年 3 月 4 日 サバーフ新内閣の発足

★サウジアラビア

- ・令和 2 年 8 月 20 日 イスラエル・UAE の国交正常化に初めて言及
- ・令和 2 年 11 月 24 日 ポンペオ国務長官のイスラエル・サウジ訪問
- ・令和 3 年 3 月 3 日 ジャマール・カショギ氏殺害に関する米国報告への反応

★シリア

- ・令和2年6月12日 社会経済危機とハミース首相の解任
- ・令和2年6月18日 米国が新たな対シリア制裁を発動
- ・令和2年7月22日 人民議会選挙の結果

★チュニジア

- ・令和2年7月17日 ファフファーフ首相が辞任
- ・令和2年7月31日 ガンヌーシー国会議長への不信任案が否決
- ・令和2年9月9日 マシーシー内閣の成立

★トルコ

- ・令和2年8月19日 バイデン米前副大統領発言の波紋
- ・令和2年10月7日 ナゴルノ・カラバフでのアルメニア・アゼルバイジャン軍事衝突へのトルコ側反応
- ・令和2年12月17日 米国によるトルコへの制裁発動

★バハレーン

- ・令和2年9月14日 イスラエルとの国交正常化合意を発表
- ・令和2年9月16日 パレスチナ不在の中東和平調印式

★パレスチナ

- ・令和2年9月14日 UAE・バハレーンのイスラエル国交正常化に対する対応
- ・令和2年11月12日 アリカートPLO執行委員会書記長兼交渉局長の死去
- ・令和3年1月18日 パレスチナ立法評議会選挙、大統領選挙、パレスチナ民族評議会選挙日程の発表

★モロッコ

- ・令和2年9月17日 新型コロナウイルス対策事情（医療従事者による抗議デモ）
- ・令和2年12月11日 モロッコとイスラエルが国交正常化に合意
- ・令和3年3月9日 ヨルダンが西サハラに領事館開設

★ヨルダン

- ・令和2年10月16日 ハサーウナ首相の任命と新内閣成立
- ・令和2年11月20日 下院選挙の結果
- ・令和3年3月9日 内閣改造（ハサーウナ第2次内閣）

★リビア

- ・令和2年8月24日 国民合意政府が停戦発表
- ・令和2年10月26日 ジュネーブで停戦合意
- ・令和3年2月8日 新統一政府の選定

★レバノン

- ・令和2年8月5日 ベイルートで大規模爆発
- ・令和2年8月13日 ベイルート港での爆発事件と政治の麻痺
- ・令和2年8月20日 レバノン特別法廷で被告1名に有罪判決

★イスラーム過激派モニター

- ・令和2年9月 令和2年11号 作戦・戦果数から見る「イスラーム国」の趨勢
 - ・令和2年11月 令和2年15号 ウィーンでの銃撃事件について「イスラーム国」が犯行声明を発表
 - ・令和2年11月 令和2年16号 AQIM 新指導者の選出
- (全タイトルは20頁参照)

ウ 「中東・北アフリカ年鑑」

利用効率を高めるため平成24年度から『別冊・中東研究データ編』と合併させ『別冊・中東研究：中東各国動向』として発刊している。この刊行形態を継続する。

【公益目的事業その3】 広報・交流事業

ア 中東情勢講演会等

中東地域の認識の深化や基本的知識を広めることを目的に、令和2年度は11回開催した。案内は、会員のみならず中東に関心を持つ一般の登録者に電子メールで案内するほか、中東調査会のホームページでも広く参加者を募っている。

令和2年度の電子メールによる案内先は、法人会員1,507人、個人会員227人、当調査会が開催する講演会に関する情報提供を希望された非会員1,483人。

令和2年度の参加申込者総数は1,027人(79人/回)、うち非会員の申込者は100人(8人/回)。各回の参加者における会員・非会員の割合は下記表を参照のこと。

1. 令和2年7月31日(金)(Zoom ウェビナー)
講師：鈴木 啓之(東京大学大学院総合文化研究科スルタン・カブース・グローバル中東研究寄付講座特任准教授)
演題：「COVID-19と西岸併合に揺れるイスラエルとパレスチナ」
2. 令和2年9月23日(水)(Zoom ウェビナー)
講師：上村 司(駐サウジアラビア特命全権大使)
演題：「コロナ禍におけるサウジ内外政」
3. 令和2年10月6日(火)(Zoom ウェビナー)
講師：齊藤 貢(駐イラン特命全権大使)
演題：「イランをめぐる情勢」
4. 令和2年10月12日(月)(Zoom ウェビナー)
講師：秋山 信将(一橋大学大学院法学研究科教授)
演題：「大国間の地政学的競争の中のイラン核問題」
5. 令和2年11月17日(火)(Zoom ウェビナー)
講師：相星 孝一(駐イスラエル特命全権大使)
演題：「最近のイスラエル情勢」
6. 令和2年12月14日(月)(Zoom ウェビナー)
講師：小林 利典(駐スルタン・オマーン国特命全権大使)
演題：「オマーン事情～新国王の下で何が起きつつあるのか～」
7. 令和2年1月21日(木)(Zoom ウェビナー)
講師：中島 明彦(駐アラブ首長国連邦特命全権大使)
演題：「UAEの情勢と今後の動向」
8. 令和2年2月3日(水)(Zoom ウェビナー)
講師：兒玉 和夫(フォーリン・プレスセンター理事長/前EU日本政府代表部特命全権大使)
演題：「回顧と展望：英国のEU離脱を含むEUの最新情勢及び日EU関係」
9. 令和3年2月15日(月)(Zoom ウェビナー)
講師：岩坂 将充(北海学園大学法学部准教授)
演題：「COVID-19対応とトルコ情勢」

10. 令和3年2月22日(月)(Zoom ウェビナー)
講師：伊藤 秀樹(駐バーレーン特命全権大使)
演題：「バーレーン情勢と日・バーレーン関係」
11. 令和3年3月25日(木)(Zoom ウェビナー)
講師：鈴木 光太郎(駐イラク特命全権大使)
演題：「最新のイラク情勢」

イ 中東連続講演会

研究員発表会及び各国の駐日大使によるシリーズ講演会を、令和2年度は5回開催し、会員及び非会員に幅広く案内を行った。なお、「駐日大使によるシリーズ講演会」は書面インタビューのため参加者人数に含めない。

1. 令和2年11月25日(書面インタビュー)
駐日中東大使に聞く 第1回 サウジアラビア
ナーフ・マルズーグ・アルファハーディ(駐日サウジアラビア特命全権大使)
2. 令和3年2月8日(書面インタビュー)
駐日中東大使に聞く 第2回 イラン
モルテザ・ラフマーニ・モヴァッヘッド(駐日イラン・イスラーム共和国特命全権大使)
3. 令和3年3月18日(書面インタビュー)
駐日中東大使に聞く 第3回 ヨルダン・ハシェミテ王国
リーナ・アンナーブ(駐日ヨルダン・ハシェミテ王国特命全権大使)
4. 中東情勢分析発表会1
令和2年12月4日(金)(Zoom ウェビナー)
演題：「コロナ禍の中東政治経済情勢」
「コロナ禍を経たサウジアラビアの内外政の課題」(研究員 高尾 賢一郎)
「COVID-19 感染拡大と経済制裁を受けたイラン情勢」(研究員 青木 健太)
5. 中東情勢分析発表会2
令和3年3月5日(金)(Zoom ウェビナー)
演題：「東地中海の資源・覇権をめぐる動向——リビア、トルコ、エジプト、イスラエル」
「リビア内戦の行方と石油産業の動向」(研究員 高橋 雅英)
「覇権主義？東地中海でトルコが目指そうとしているもの」(研究員 金子 真夕)
「エジプトの対トルコ多国間戦略／イスラエルの天然ガス輸出と地域国際関係」
(上席研究員 金谷 美紗)

ウ 中東を知るセミナー

COVID-19 感染拡大を背景に、会員にとっては出入国規制等にかかわる流動的な現地情報の需要が極めて高かったため、各国・地域の基礎的な情報や経年的な動向分析に主眼を置いた本セミナーは実施せず、代わりに COVID-19 感染拡大状況を含めた直近の情報提供を中心とする現地大使の講演会実施を優先した。

表：中東情勢講演会、中東連続講演会、中東を知るセミナー参加者数

項目	日付	講演者	会員	非会員	合計	非会員割合	
ア	1	令和2年7月31日	鈴木 啓之	33	13	46	39%
	2	令和2年9月23日	上村 司	86	10	96	12%
	3	令和2年10月6日	齊藤 貢	81	17	98	21%
	4	令和2年10月12日	秋山 信将	40	13	53	33%
	5	令和2年11月17日	相星 孝一	82	12	94	15%
	7	令和2年12月14日	小林 利典	69	3	72	4%
	8	令和2年1月21日	中島 明彦	83	3	86	4%
	9	令和3年2月3日	兒玉 和夫	43	3	46	7%
	11	令和3年2月15日	岩坂 将充	51	6	57	12%
	12	令和3年2月22日	伊藤 秀樹	83	5	88	6%
	14	令和3年3月25日	鈴木 光太郎	88	7	95	8%
イ	1	令和2年12月4日	中東情勢分析発表会 1	95	4	99	4%
	2	令和3年3月5日	中東情勢分析発表会 2	93	4	97	4%
		令和2年度合計		927	100	1027	11%
		(参考) 令和元年度合計		797	271	1068	34%

エ 中東大使を囲む会（意見交換会）

中東に在勤する日本大使が東京で一同に会する機会をとらえて開催しているレセプション形式の会合。法人・個人会員、非会員法人の方々と大使との間の意見交換の場を提供している。

COVID-19 感染対策のため、今年度は実施せず。

オ 中東調査会ホームページ

ホームページ（<https://www.meij.or.jp/>）を開設しており、会員のみならず一般にも広く中東関連情報を提供している。令和2年度の年間アクセス数は37万4,599回。

【収益事業等】 賛助会員向け共益事業

ア トップミーティング（朝食会等）

法人会員の最高幹部レベルならびに特別個人会員を対象とした会合で、国際情勢等に関して外務省幹部他、政府関係者・民間有識者による講演に加え意見交換を行う。

1. 令和2年6月5日 於)ホテルオークラ
講 師：中山 俊宏（慶應義塾大学総合政策学部教授）
演 題：「トランプは強いのか？：米国社会の変容から読み解く2020年大統領選挙」
2. 令和2年6月16日 於)帝国ホテル
講 師：高橋 克彦（外務省中東アフリカ局長）
演 題：「最近の中東情勢」
3. 令和2年7月9日 於)ホテルオークラ
講 師：興梠 一郎（神田外語大学アジア言語学科教授）
演 題：「いま中国で何が起きているのか？－習近平体制の現状と課題－」
4. 令和2年9月15日 於)ホテルオークラ
講 師：芹川 洋一（日本経済新聞社論説フェロー）
演 題：「安倍政権のゆくえ」
5. 令和2年9月23日 於)帝国ホテル
講 師：宇山 秀樹（外務省欧州局長）
演 題：「最近の欧州情勢と日本外交」
6. 令和2年10月8日 於)ホテルオークラ
講 師：西野 純也（慶應義塾大学教授）
演 題：「韓国政治から読み解く日韓関係」
7. 令和2年11月9日 於)ホテルオークラ
講 師：市川 恵一（外務省北米局長）
演 題：「大統領選挙と日米関係」
8. 令和2年11月19日 於)帝国ホテル
講 師：森 健良（外務審議官(政務)）
演 題：「コロナ禍の日本外交」
9. 令和2年12月15日 於)ホテルオークラ
講 師：田中 浩一郎（慶應義塾大学大学院教授）
演 題：「2020年米大統領選挙を受けたイラン情勢の展開」
10. 令和3年1月14日 於)ホテルオークラ
講 師：秋葉 剛男（外務事務次官）
演 題：「2021年の日本外交の展望」
11. 令和3年3月29日 於)帝国ホテル
講 師：四方 敬之（外務省経済局長）
演 題：「日本の経済外交の現状と展望」

12. 令和3年3月30日 於)ホテルオークラ
講 師：藤原 帰一 (東京大学法学政治学研究科教授)
演 題：「アメリカ中東政策の転換」

イ 「中東トピックス」、「中東分析レポート」等

平成19年11月に創刊された賛助会員(法人)幹部役員及び特別個人会員に郵送配布している。発行の約1週間後に当会ホームページの法人・個人会員限定ページにも掲載している。

発行概要(令和2年4月1日-令和3年3月31日)

1. 「中東トピックス」

各月の重要事項を中東調査会研究員が分析・評価したレポート。毎月月初に郵送配布。

令和2年4月

- ・イスラエル：リクードと青と白が連立合意
- ・トルコ：新型コロナウイルス感染者数10万人突破とリラ安
- ・サウジアラビア：石油減産に向けた舵取り
- ・レバノン：債務再編に向けた経済改革計画の発表
- ・モロッコ：新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済悪化
- ・イラン：米国・イラン間での挑発行為の応酬
- ・イラク：新首相指名も新内閣の組閣は進まず

- ・モロッコ：新型コロナウイルス感染症の感染拡大と経済再建策
- ・GCC：相次いだ王族の入院

令和2年8月

- ・イスラエル：UAE 国交正常化合意による二国家解決の終焉?
- ・GCC：イスラエルとの国交正常化の動きは低調
- ・トルコ：東地中海情勢をめぐるギリシャとの緊張の高まり
- ・イラン：国連安保理が米国のスナップバック発動要請を却下
- ・レバノン：政治・経済・社会の破壊的ダメージのなか新首相任命
- ・チュニジア：内陸部で新型コロナウイルス感染症が感染拡大
- ・アフガニスタン：ロヤ・ジルガ(国民大会議)が囚人釈放を勧告
- ・イラク：カージミー首相の米国訪問

令和2年5月

- ・イスラエル：ネタニヤフ新内閣は西岸入植地の併合へ
- ・アフガニスタン：政治合意により包摂的な政府が成立
- ・チュニジア：リビア内戦に関する発言でガンヌーシーへの批判
- ・イエメン：内戦とCOVID-19の二重苦
- ・トルコ：トルコリラの最安値更新
- ・イラン：COVID-19拡大の「第2の波」に直面

令和2年9月

- ・トルコ：周辺情勢の緊迫とトルコリラの続落
- ・GCC：米国による中東和平ロードマップへの対応
- ・レバノン：組閣の失敗、予期される政治的混乱
- ・イラン：米国がスナップバックを宣言するも国際的に孤立
- ・アフガニスタン：和平交渉が開始
- ・リビア：東西政府の首相が辞任の意向を発表

令和2年6月

- ・イラン：IAEAが完全協力を要請する決議を採択
- ・トルコ：チャウシュオール外相のリビア訪問
- ・リビア：リビア内戦をめぐるEUとトルコが対立
- ・イスラエル：西岸併合は延期の見込み
- ・イラク：カージミー新政権の閣僚が出そろう
- ・GCC：国際線航空便の再開に向けた動き
- ・エジプト：新型コロナウイルスの感染拡大の中、経済活動を再開

令和2年10月

- ・トルコ：米仏との対立が深刻化
- ・イラン：武器禁輸措置の解除と今後への影響
- ・UAE：国交正常化合意後の対イスラエル関係
- ・リビア：原油輸出の全面再開
- ・イラク：デモ周年を迎え、依然不安定な治安状況
- ・エジプト：上院・元老院の成立、下院選挙の開始

令和2年7月

- ・トルコ：アヤソフィアをモスクに変更
- ・イスラエル：西岸併合の延期
- ・イラク：イラン・サウジとの東西外交
- ・イラン：連続して不審な爆発事件が発生

令和2年11月

- ・イラン：米大統領選挙結果を受けたイラン側の反応
- ・トルコ：カタール・タミーム首長のトルコ訪問
- ・サウジアラビア：コロナ禍のもとでのG20サミット
- ・モロッコ：ポリサリオ戦線との緊張が高まる
- ・エジプト：下院選挙は終盤へ、国民未来党の圧勝
- ・リビア：大統領選挙及び議会選挙が2021年12月実施へ

令和2年12月

- ・モロッコ：イスラエルとの国交正常化に対する国内での反発
- ・イラン：JCPOA 合同委員会が目立った進展なく閉会
- ・トルコ：東地中海問題でEU理事会がトルコへの追加制裁を決議
- ・イラク：対トルコ関係に進展
- ・アルジェリア：ドイツで療養中のタブーン大統領が帰国
- ・イスラエル：国会の解散、3月総選挙へ
- ・イエメン：統一政府の樹立と治安状況

令和3年1月

- ・イスラエル：軍トップによるイラン攻撃計画発言の余波
- ・イラン：米国バイデン政権発足へのイランの反応
- ・アフガニスタン：駐留米軍が2500名へ削減完了
- ・イエメン・イラク：米国による相次ぐ制裁対象指定とその余波
- ・トルコ：ギリシャとの予備的協議を再開
- ・サウジ・UAE・バハレーン・エジプト：カタールとの国

交回復

- ・リビア：石油輸出停止への懸念が再燃
- ・アルジェリア：タブーン大統領がドイツで再入院

令和3年2月

- ・シリア：米国がアブー・カマールを空爆
- ・トルコ：イラク北部でのトルコ人13名殺害と米国の反応
- ・アフガニスタン：ターリバーンと国際テロ組織との関係断絶を巡る状況
- ・イエメン：米国のアンサールッラー「テロ組織」指定撤回の影響
- ・リビア：統一政府の組閣に向けた動き
- ・イラン：「第4の波」が懸念される中、COVID-19 ワクチン接種が開始

令和3年3月

- ・エジプト：スエズ運河でコンテナ船が座礁、世界の物流に打撃
- ・リビア：新たな統一政府が議会で承認
- ・イラン：中国がイラン産原油の輸入を増加
- ・トルコ：中央銀行総裁、副総裁更迭
- ・イエメン：前線での戦闘激化とサウジアラビアによる停戦案
- ・イスラエル：2年間で4回目の総選挙、連立交渉は難航の見通し
- ・イラク：親イラン武装勢力の活発化
- ・アフガニスタン：ターリバーンが武装抵抗活動の継続を警告

2. 「中東分析レポート」（令和2年度発行総数は14号）

中東の特定の問題に関し、外部執筆者または中東調査会研究員が詳細に分析したレポート。随時郵送配布。

令和2年4月8日	イランにおける新型コロナウイルス感染拡大の諸要因 研究員 青木 健太
令和2年4月23日	新型コロナウイルスの感染拡大と財政問題に揺れるアルジェリア 研究員 高橋 雅英
令和2年4月27日	新型コロナウイルスの流行と一進一退するアフガニスタン和平過程 研究員 青木 健太
令和2年6月11日	中東各国における新型コロナウイルス感染症の影響 中東調査会
令和2年7月8日	COVID-19 感染拡大とサウジ・ビジョン2030 研究員 高尾 賢一郎

令和2年7月10日	イランの地域における対外政策：継続する「革命の輸出」 研究員 青木 健太
令和2年7月15日	コロナ禍に直面するメッカ大巡礼（ハッジ） 研究員 高尾 賢一郎
令和2年8月25日	中東各国におけるイスラエル・UAE 国交正常化への反応 中東調査会
令和2年9月8日	イスラエルとUAEの国交正常化合意 —揺らぐアラブ連盟の対イスラエル行動原則— 協力研究員 中島 勇
令和2年10月20日	イラン・中国関係の進展と今後の展望 研究員 青木 健太
令和2年11月12日	中東各国における新型コロナウイルス感染症の影響 #2 中東調査会
令和3年1月3日	2020年中東情勢の回顧 中東調査会
令和3年1月27日	米国バイデン政権の誕生と中東諸国 中東調査会
令和3年3月22日	イラン核合意を巡るイラン・米国対立と今後の展開 ～イラン国内諸派間の関係性に着目して～ 研究員 青木 健太

3. 「イスラーム過激派モニター」（令和元年度発行部数は18号）

平成30年度より発信形態を「かわら版」から会員専用の「イスラーム過激派モニター」に変更。

令和2年4月3日	イスラーム過激派の新型コロナウイルス解釈
令和2年5月25日	ターリバーンは2020年の攻勢開始を未だ宣言せず
令和2年6月5日	「イスラーム国」の観察：低迷傾向は続く
令和2年6月10日	コロナ禍のラマダーンと過激派
令和2年7月13日	アフリカのイスラーム過激派の動向：サヘル地域とモザンビークを中心に
令和2年7月13日	イドリブ県のイスラーム過激派諸派と外国勢力 —トルキスタン・イスラーム党について—
令和2年8月5日	「イスラーム国」によるアフガニスタン刑務所襲撃の声明
令和2年8月7日	「イスラーム国」と犠牲祭
令和2年8月21日	イスラエル・UAEの国交正常化への反応

- 令和2年9月7日 アルジェリアとチュニジアにおけるイスラーム過激派の動向
- 令和2年9月16日 作戦・戦果数から見る「イスラーム国」の趨勢
- 令和2年10月14日 アル＝カーイダによる外国権益への警告
- 令和2年10月16日 マリの囚人解放に関する JNIM の声明
- 令和2年10月20日 「イスラーム国」公式報道官 アブー・ハムザ・クラシーの音声演説
- 令和2年11月4日 ウィーンでの銃撃事件について「イスラーム国」が犯行声明を発表
- 令和2年11月24日 AQIM 新指導者の選出
- 令和3年2月12日 モザンビークのイスラーム過激派：地域的拡大とガス田サイト攻撃への懸念
- 令和2年3月31日 モザンビークのイスラーム過激派：ガス田サイト近郊の町への攻撃

4. 「中東調査会月間活動誌」

中東調査会の活動を報告する広報誌。中東に関係する外務省人事及び要人往来も紹介。毎月月初に郵送配布。

ウ 「Daily News」の配信

中東の日誌データを、毎月ごとの国別に整理して電子メールにて法人会員に提供している。令和2年度は各国別に月1回発信

エ リビア入国ビザ取得支援

リビアへのビザ申請には、アラビア語使用等特殊な要求がなされ、これを支援してきた経緯があるが、現在リビアは全土に「退避を勧告します。渡航は延期してください。」との外務省海外安全情報が出されている。従って、当調査会としてもビザ取得を支援しうる環境ではなく、海外安全情報に変更されていない為、平成23年度以降は実施していない。